

第1回 子どもの心のケアに係る総合拠点(仮称)開設準備委員会

目次

- (1) 平成28年度の検討経緯について [1-2]
- (2) 検討の進め方について [3]
- (3) 課題及び検討の方向性について
 - ① 各入所施設、北病院の対象児童について
 - ・ H28年度委員会及びWGの概要 [4-6]
 - ・ 検討の方向性 [7]
 - ② 各医療機関の特色を生かした役割分担について
 - ・ H28年度委員会及びWGの概要 [8-10]
 - ・ 検討の方向性 [11]
 - ③ 地域小児科医等との連携のあり方について
 - ・ H28年度委員会及びWGの概要 [12-13]
 - ・ 検討の方向性 [13]
 - ④ 地域における支援・連携体制の強化について
 - ・ H28年度委員会及びWGの概要 [14]
 - ・ 検討の方向性 [14]
- (4) 検討スケジュールについて [15-16]

- (参考) H28年度委員会及びWGの発言等要旨 [別冊 1- 8]

(1) 平成28年度の検討経緯について

■平成28年5月 発達障害等に対する総合的な基本構想策定委員会を設置

- ・医療・福祉関係者や有識者などにより構成
- ・委員会、ワーキンググループ 全6回開催

■平成28年11月 子どもの心のケアに係る総合拠点(仮称)整備基本構想を策定

○ 基本理念

全国に先んじた高度な医療を提供するとともに、相談や心理ケア、学校教育などの総合的な支援を行う、子どもの心のケアに係る総合拠点を整備

(こころの発達総合支援センター、児童心理治療施設及び中央児童相談所の一体的な整備)

○ 目指す姿

- ・一体的な整備によるメリットを活かした効果的な支援

県営の3施設を同じ敷地に集積。顔の見える関係の医師・スタッフが迅速で一貫した手厚い支援を提供

- ・全県的な支援ネットワークの整備

総合拠点の3施設が中心となった医療、福祉、教育、行政等各分野における支援ネットワークの構築

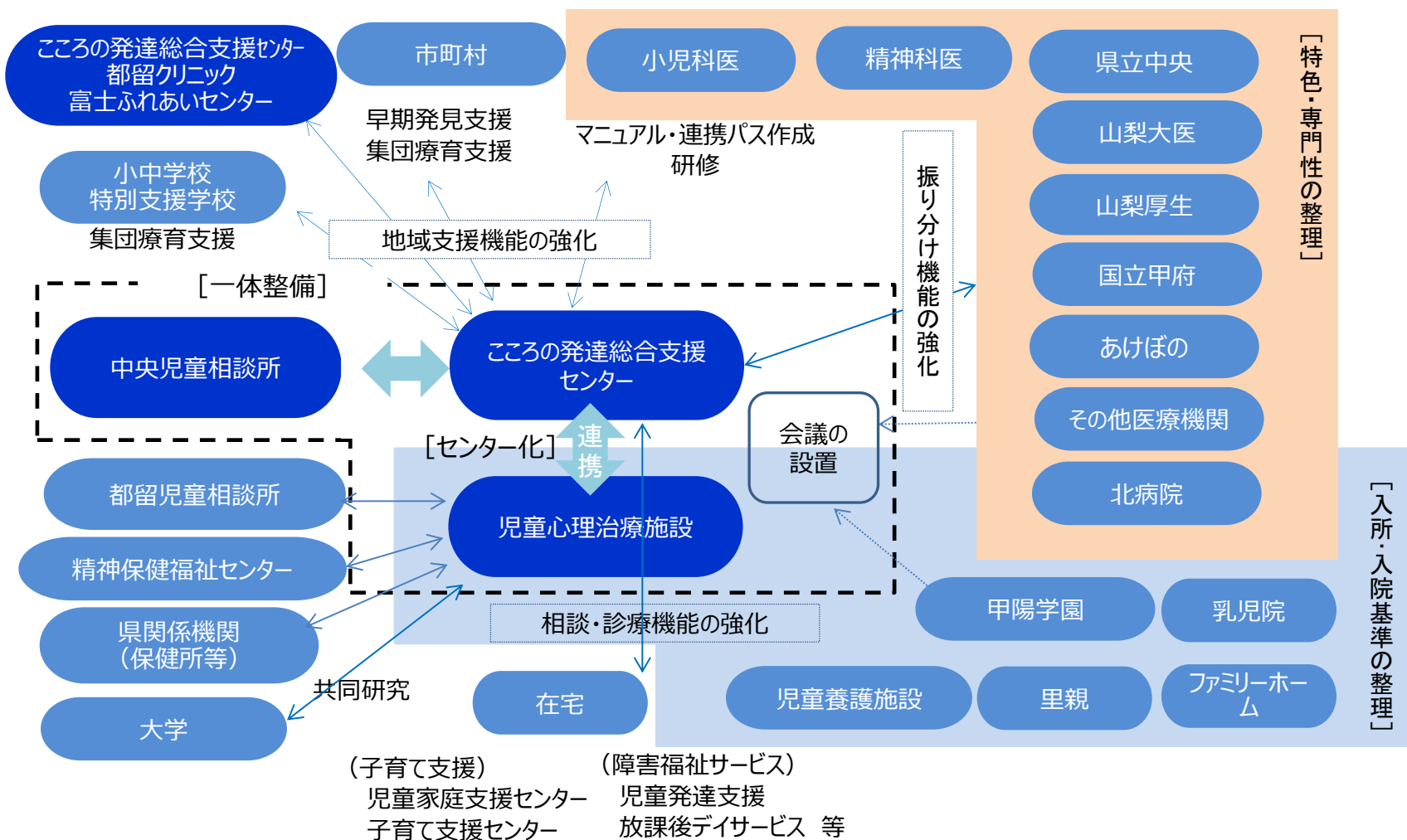
○ 構想推進

総合拠点の整備及び全県的な支援ネットワーク体制の構築にあたって、引き続き関係機関による会議を開催し、連携を強化

[検討事項]

- ・各入所施設や北病院における適切な入所や入院について
- ・関係医療機関の特色を生かした役割分担の明確化及びここセンや関係医療機関、地域の小児科医による医療ネットワークの構築について
- ・地域における発達障害等の早期発見・早期支援のための体制の強化について

■ 総合拠点及び支援ネットワーク



(2) 検討の進め方について

■ワーキンググループ（WG）の設置

発達障害等に係る先進的な総合拠点の整備と併せ、全県的な支援体制の構築を推進するため、各入所施設、北病院の対象児童や、医療ネットワークの構築、地域における支援・連携体制の強化について、より具体的で実践的な検討を進めていく必要があることから、分野ごとにWGを設置

[WGの検討事項]

- 各入所施設、北病院の対象児童について
- 医療ネットワークの構築について
 - ・ 各医療機関等の特色を活かした役割分担について
 - ・ 地域の小児科医等との連携のあり方について
- 地域における支援・連携体制の強化について



■総合拠点開設準備委員会へフィードバック

- ・WGでの検討結果を取りまとめ、翌年度に向けた課題を整理

(3) 課題及び検討の方向性について

① 各入所施設、北病院の対象児童について

< H28年度委員会及びWGの概要 >

- 児童心理治療施設が入所対象とする児童の症状、就学状況、日常生活状況などの検討を、委員会、WGで行った。
- 資料5ページの「入所対象児童像(案)」については、特に異論はなく、高度に難しい発達課題を持った子どもたちの受け皿として虐待の専門施設という流れが現実的にあるとの意見があった。
- また、児童相談所には施設入所への措置にあたって、明文化された入所基準がなく、各施設の性格・対象者の違いを整理する必要があるため、資料6ページの「児童心理治療施設の入所(措置)基準(案)」により、他の施設との比較をWGで行った。
- ある程度ハイグレードな子どもを対象として、施設ごとにランクづけした表であるという理解のもと、逸脱行動で暴力が激しいケースは児童自立支援施設、内面的問題で苦しんでいる子どもは児童心理治療施設など、各入所施設の棲み分けイメージについて意見があった。
- 北病院については、親元に帰せず入院が長期化しているケースも多く、児童心理治療施設ができれば、役割を見直す必要があるとの意見があった。
- また、全国でも児童心理治療施設の施設崩壊の事例がある中、強い逸脱行動等で施設で対応が困難になったときは、医療機関からのサポートが必要であるとの意見があった。

■ 児童心理治療施設の入所対象児童像（案）

- (1) 被虐待等の環境要因により、社会生活への適応に課題を生じており、安定的な環境での生活や、生活場面に沿った心理的な介入により、改善が期待される児童
- (2) 二次障害として適応の困難を生じており、本人に合わせた対応を進める必要があると考えられる発達障害児
- (3) 強い対人不安等から生じている、引きこもり、家庭内暴力などの問題を抱えており、環境調整等により改善が見込まれる児童
- (4) 心身症等により不登校の問題が生じている児童で、環境調整等により改善が見込まれる児童
- (5) その他、児童相談所長が必要と判断した児童

■ 児童心理治療施設の入所(措置)基準 (案)

児童心理治療施設は、被虐待などの環境要因により、主に対人関係や愛着、集団適応に問題がある児童(下表の症状・状態の特徴を持つ者)であって、かつ、数ヶ月～約2年程度の心理治療や生活指導等で改善が見込める者を対象とする。

	施設の性格	対人関係と愛着		逸脱行動				集団適応			知的能力	発達障害	被虐待経験有り
		愛着形成	共感性	暴力・非行行動	衝動的行動	攻撃的行動	多動	対人関係スキル	集団参加	抑うつ			
児童心理治療施設	専門的な治療を受けながら、家庭復帰や児童養護施設・里親等での生活を目指す	◎	◎	△	△	△	○	◎	◎	◎	○	○	◎
児童養護施設	環境上、養護を要する児童を入所させ、自立を支援	○	○	△	△	△	△	○	△	△	△	○	◎
児童自立支援施設	非行・問題行動などで指導が必要な児童、家庭で養育困難な児童の自立を支援	△	△	◎	○	◎	○	○	△	△	△	○	○

◎ 本施設の対象(主症状)

○ 主症状の1つであるが、複数の主症状のまとまりで、本施設の対象

△ 主症状ではないが、併発する症状として本施設の対象

無印 本施設の対象ではない

< 検討の方向性(案) >

○各入所施設の対象者の棲み分けについて

・児童心理治療施設、児童養護施設、児童自立支援施設が対象とする児童の状態、症状は、どのようなものか。

○県立北病院の役割について

・各入所施設との関係において、子どもの心のケアについて、北病院が担う役割はどのようなものか。

○各入所施設及び県立北病院の連携の在り方について

・児童の状況の変化に応じて、必要な支援を、効果的・効率的に提供できるよう、どのように連携すればよいか。

② 各医療機関の特色を生かした役割分担について


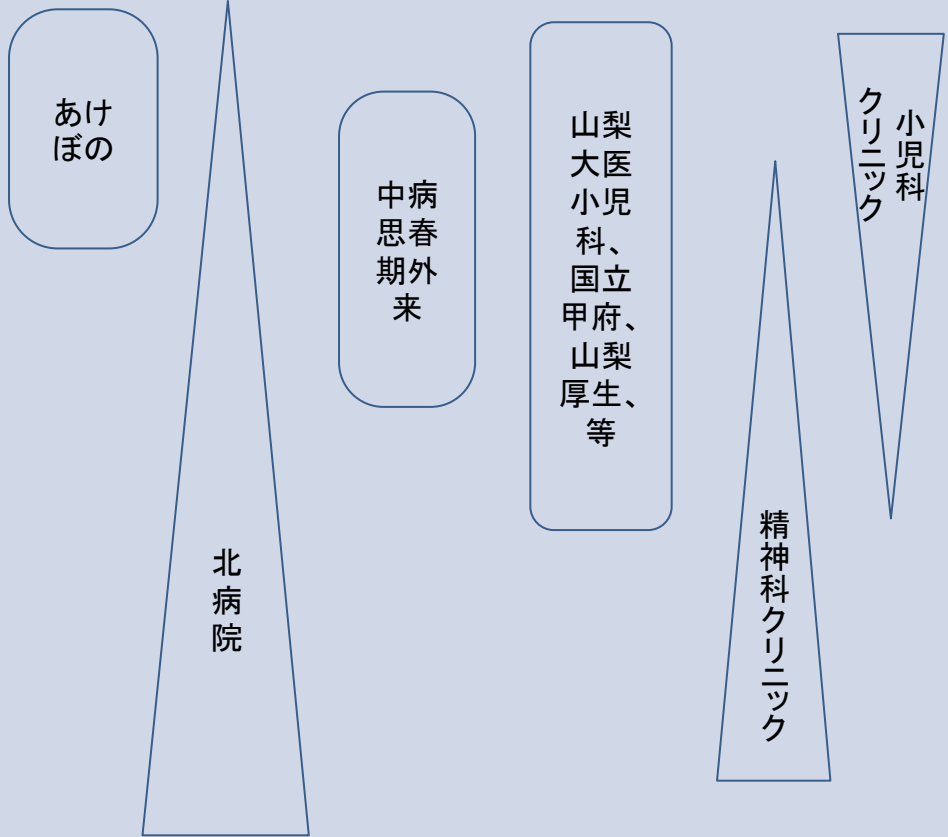
< H28年度委員会及びWGの概要 >

- 本県における発達障害等に係る医療の役割分担を整理するため、各医療機関による医療体制を重症度や年齢、疾患別などに整理した図を、ワーキンググループに提示して検討。
- 限られた医療資源を有効に活用するには、連携システムを構築することが重要であるとの意見があった。
- 各医療機関の現状としては、リハビリが特色であるあけぼの、富士ふれあいなど、どこの関係医療機関も枠が埋まっている状況であり、本県の児童精神科医療の供給不足により、ここセンに集中。ここセンで待ちきれない患者が北病院に流れている状況であるとの意見があった。
- 事務局で整理した資料を基に、各医療機関の特色や得意分野について調査を実施し、具体的にどのようなことができるかを考えていくべきとの意見があり、治療、検査、特色・得意分野などを調査項目とした「医療機関別調査表」を作成し、調査中。

■ 重症度、年齢による整理（※役割分担が定まっていない状況を楕円でイメージ）

重症度	年齢別			
	就学前	小学生	中学生	中卒～18歳未満
三次医療 (入院・重症)	北病院			
二次医療 (専門外来・ 軽症)	ここセン			
一次医療 (一般外来)	あけぼの			
	中病・思春期外来			
	山梨大医、国立甲府、山梨厚生			
	一般小児科		一般精神科	

■ 疾患別による整理（※疾患別と医療機関の位置づけは正確ではないが、検討のためにあえて明示）

疾患別	医療機関	
<p>発達障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自閉症スペクトラム ・ADHD ・LD <p>心身症</p> <p>虐待による障害</p> <p>神経症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適応障害、強迫性障害など <p>精神障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症、うつ病など 	 <p>ここセン</p>	 <p>あけほの</p> <p>中病 思春期 外来</p> <p>山梨大 小児科、 国立 甲府、 山梨 厚生、 等</p> <p>北病院</p> <p>精神科 クリニック</p> <p>小児科 クリニック</p>

< 検討の方向性(案) >

- 各医療機関の役割分担と連携について
 - ・各医療機関の特色を生かして、どのような役割分担が可能か。

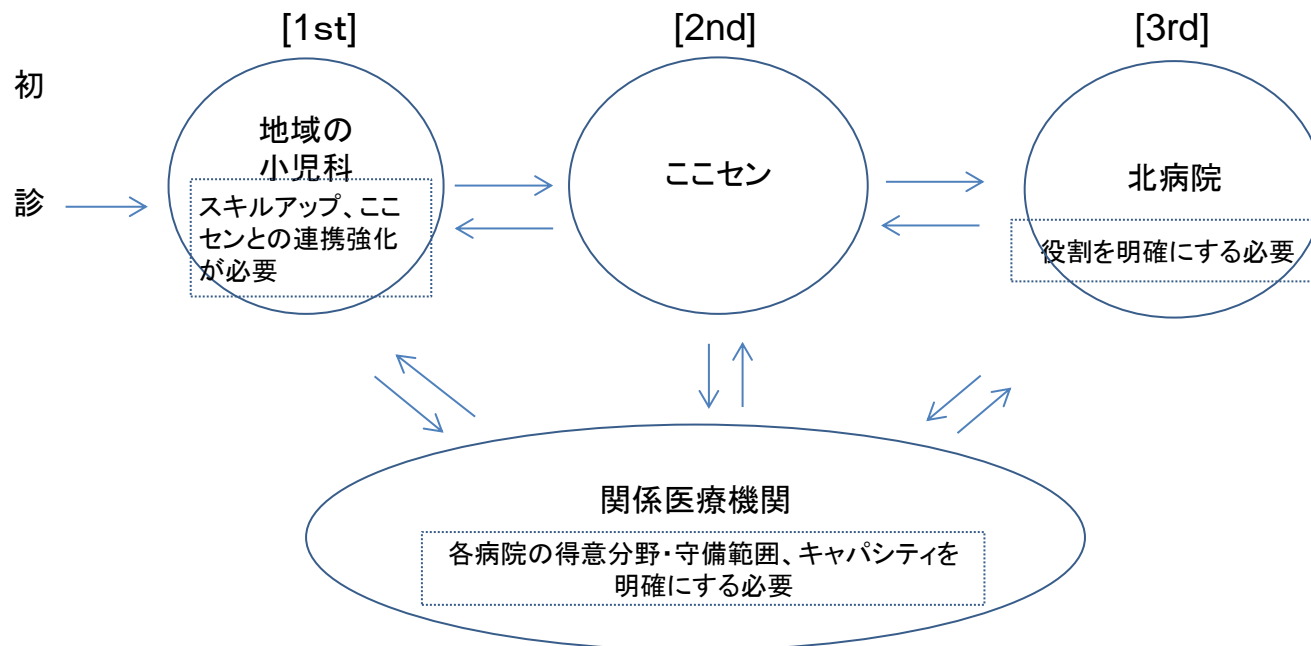
③ 地域小児科医等との連携のあり方について

< H28年度委員会及びWGの概要 >

- ここセンでの相談、診療までの待機期間が長期化している中、現在、地域の小児科医との連携に向けた取り組みが進められているが、子どもの心の診療に係る医療資源が不足する中、子どもの心の医療ニーズに効果的・効率的に対応していくための連携のあり方について、検討を行った。
- 発達障害等の医療ニーズの増加に対応するため、ここセンの役割を明確にすることで、なるべく早く相談・診療を行い、適切なところにつなぐシステムが必要との意見があった。
- ここセンが、初診の段階から患者を引き受け、全ての患者の振り分けを行うことは、現実的に難しい、地域の小児科医との連携を進める中で、ファーストタッチは地域小児科医が行い、セカンドタッチとして年に1、2回ここセンに診てもらうのが、医療資源を有効に活用する方法ではないかとの意見があった。
- また、ライフステージを通じた支援が必要であるため、地域小児科医だけでなく、地域精神科医との連携も考えるべきとの意見があった。

■ファーストタッチ機関と他機関との連携イメージ

(例)発達障害の場合



< 検討の方向性(案) >

○地域の小児科等との連携のあり方について

- ・ここセンと地域の小児科医とが、どのような連携システムを構築していくべきか。
- ・ここセン及び地域の小児科医と地域の精神科医とが、どのように連携を図っていくべきか。

④ 地域における支援・連携体制の強化について

< H28年度委員会及びWGの概要 >

- 早期発見、早期支援については、市町村等において乳幼児健診や就学時健診で取り組んできたが、その後の支援体制を充実する必要があるなどの意見があった。
- また、人材のレベルを上げていくことが重要であり、研修による人材育成など市町村等への支援の強化を打ち出していくことが望ましいとの意見があった。

< 検討の方向性(案) >

- 早期発見・早期支援のための連携強化について
 - ・地域における発達障害等の早期発見・早期支援のため、どのような連携体制を構築していくべきか。
- 地域における人材育成の方策について
 - ・地域における担い手を育成するため、どのように取り組むべきか。

(4) 検討スケジュールについて ～全県的な支援体制の構築に向けて～

◇H29-31の3カ年スケジュール(案)

NO	課題	課題へのアプローチ		
		H29年度	H30年度	H31年度
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 社会的養護が必要な児童に対して適切な支援を提供するため、児童心理治療施設をはじめ、各入所施設や北病院の対象児童の明確化と連携方法の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 児童心理治療施設及び各施設が対象とする児童の状態・症状の基準等の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 児童の状態変動等に対応した施設間の連携の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 児童心理治療施設の入所判定に向けた個別事例の検討
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 限られた医療資源を生かし、効果的に子どもの心の診療を行うため、地域の医療機関との役割分担や連携システムの構築が必要 ◆ ライフステージに応じた切れ目ない支援体制を構築するためには、小児科だけでなく、地域の精神科との連携が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各病院の特色を生かした役割分担の在り方の検討 ◆ 地域の小児科医との連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 病院間の連携のための方策の検討 ◆ 地域小児科医の育成・連携のための方策の検討 ◆ 精神科医との連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ライフステージに応じた支援のための医療機関の連携方策の検討
3	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 発達障害等の早期発見・早期支援のため、市町村や保育園、学校など地域における担い手の育成と連携強化が必要 	(※)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域における支援、連携の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域における人材育成の方策の検討 ◆ 地域における連携強化策の検討

(※)乳幼児健診などによる発達障害等の早期発見後、医療につなげるには、関係医療機関の特色に応じた役割分担を明確にする必要があるため、H29に関係医療機関の役割分担について検討を行い、NO3はH30から検討

◇H29年度スケジュール(案)

	委員会・WGの別	H29年度検討事項	第1回委員会	第1回WG	第2回WG	第3回WG	第2回委員会
1	開設準備委員会	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 全県的な支援体制構築のための課題の整理 ◆ 検討内容・スケジュールの確認 ◆ WGの検討結果の取りまとめ ◆ 次年度に向けた課題の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 全県的な支援体制構築のための課題整理、確認 ◆ 検討内容・スケジュール 				<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各WGにおける検討結果の取りまとめ ◆ 次年度に向けた課題の整理
2	医療連携WG	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各病院の特色を生かした役割分担の在り方の検討 ◆ 地域の小児科医との連携の在り方の検討 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各病院の特色の整理 ◆ 特色を生かした役割分担の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域小児科医との連携に係る現状と課題の確認 ◆ 地域小児科医との連携の在り方の検討 		
3	医療・福祉施設連携WG	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 児童心理治療施設及び各入所施設、北病院が対象とする児童の状態・症状の基準等の検討 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各施設における現状と課題の確認 ◆ 本県の入所対象児童の状態像の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 児童心理治療施設の入所基準等の検討、整理 ◆ 他の施設との役割分担の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 児童心理治療施設の入所基準等の取りまとめ 	